

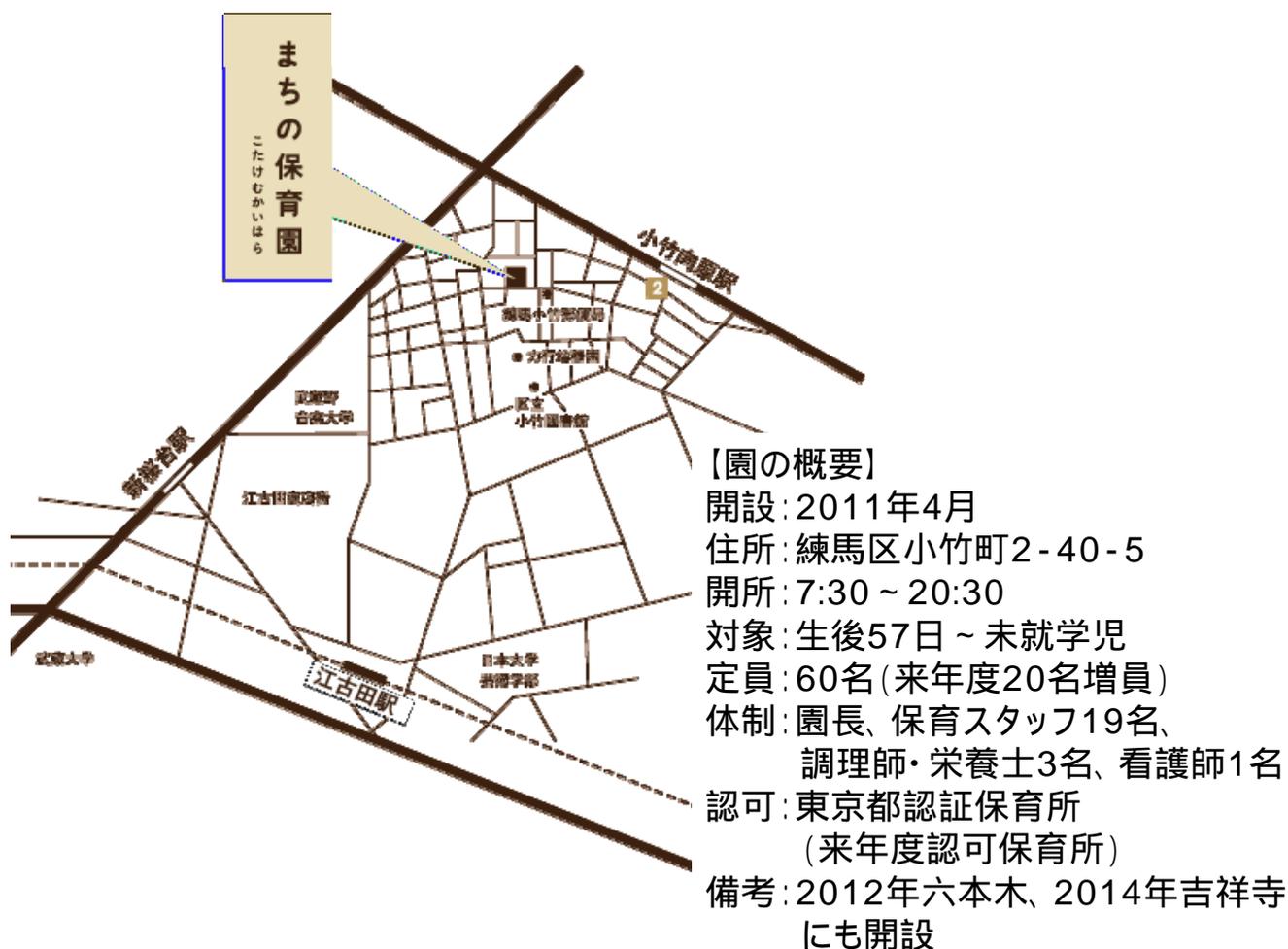
まちの保育園小竹向原視察報告

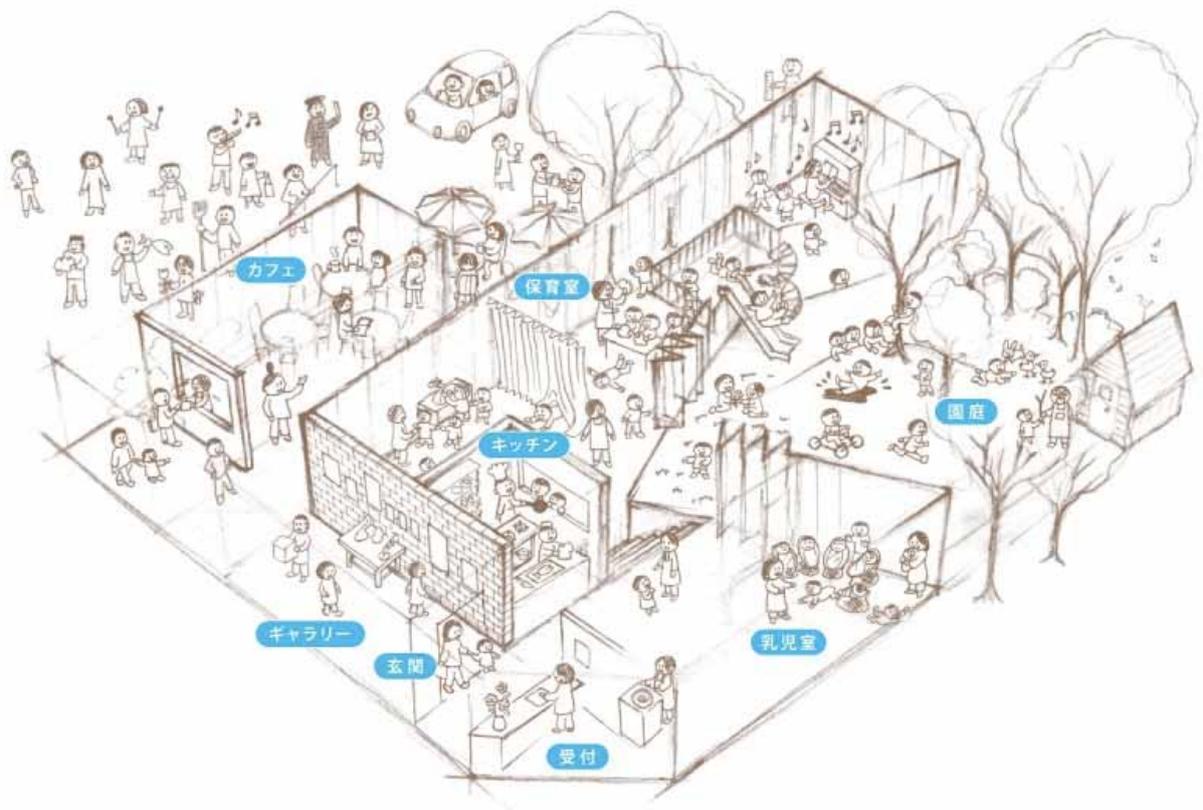


こたけむかいほら

平成27年1月22日

第3回豊島区リノベーションまちづくり検討委員会





地域へ向けて開かれたイメージを広く伝えるため、外装はほぼ全面ガラス張り。



内装は木と石とレンガでつくられ、乳児室は落ち着いた雰囲気のある独立部屋で、1歳児以上は広い部屋で、子供の発達や興味・活動内容に合わせてフレキシブルに活用できるよう家具等の配置で空間を更新。



エントランスにあるギャラリーには、子供達の育ち・学びを記録したドキュメンテーション(写真・動画等)展示し保護者や地域との対話を生み出すツールとして活用。
子供達の作品展示や企画展示も行っている。



園庭には、遊びを規定するような遊具は置かず、子供が自然の中から新しい遊びを発見できるよう工夫。
園庭中央の築山は、保護者や地域の人とのワークショップを通じて造成作業まで行った。



別棟に地元で評判のベーカリーのカフェを誘致し、登園前に母親と園児が朝食を食べたり、午前中は地域のママサロン、午後は祖父母世代やお迎えの母親等の幅広い世代の交流の場、夜は園児を迎えに来た家族の夕食や父親の交流の場となる等、保育園と地域の接点となっている。



カフェだけでは目的性が高いため、ベーカリーを併設し、気軽に立ち寄れるパンの持ち帰り需要を取り込むことで美しさと確からしさのバランスを取っている。

保育園開設にあたって

- 地域資源を活かした保育と保育園を地域の共有資源として開放し、人々の豊かな生活にも貢献することを目指す。
- 当初は認可保育園を目指すも、新規法人での認可が難しく認証保育となったが、直接契約で文化がつかれるという点では良かった。
- 認証保育所のため、認可保育所より補助が少ない分を企業・自治体・社会福祉法人へのコンサルティング報酬、専門学校講師給与等を園の運営費に回している。

保育園の果たすべき役割

- 保育園は地域福祉・まちづくりの拠点・インフラになる。
- コミュニティセンターの機能を目指している。
- 大人を信じられるまちをどう作れるか。

保育園と地域をつなぐ仕組み

- 保育園と地域のつなぎ役であるコミュニティコーディネーター。
- 保育園と地域をつなぐ場づくり
カフェ(小竹向原)、まちのガーデン(六本木)等

3つの力を信じる

【子供の力を信じる】

子供の興味・関心に寄り添い、新しい学びを自ら創り出し、可能性を広げるために地域のリソースを活用する。

【対話の力を信じる】

常に最善の答えを導き出すため、普段から保育者・保護者・地域の人々、あらゆる関係性において対話の機会をつくり出す。

時間確保のため、運動会・学芸会等の行事は行わない。

【コミュニティの力を信じる】

様々な可能性や個性を受け止めるため、多くの目・心で子供達を見つめるために地域に開く。

地域の巻き込み方

【ボランティア】

希望者と面談し、理念を共有した上で居場所と役割を与え、定期的に参加してもらう。

【イベント】

地域にいるアーティスト、小学校・福祉施設・サークル等と様々なイベントを開催する。

【保育活動】

アーティスト、農家、大学、ボランティア等、それぞれが持っている知識や能力を活かして保育活動に携わってもらう。

15ヶ年計画

【2010～2014年】

創世期：地域ぐるみで子供を育てる保育園づくり

【2015～2019年】

標準化期：アライアンスパートナーとの連携で一般化

【2020～2024年】

発展期：学校のまち化、幼児教育の人材育成